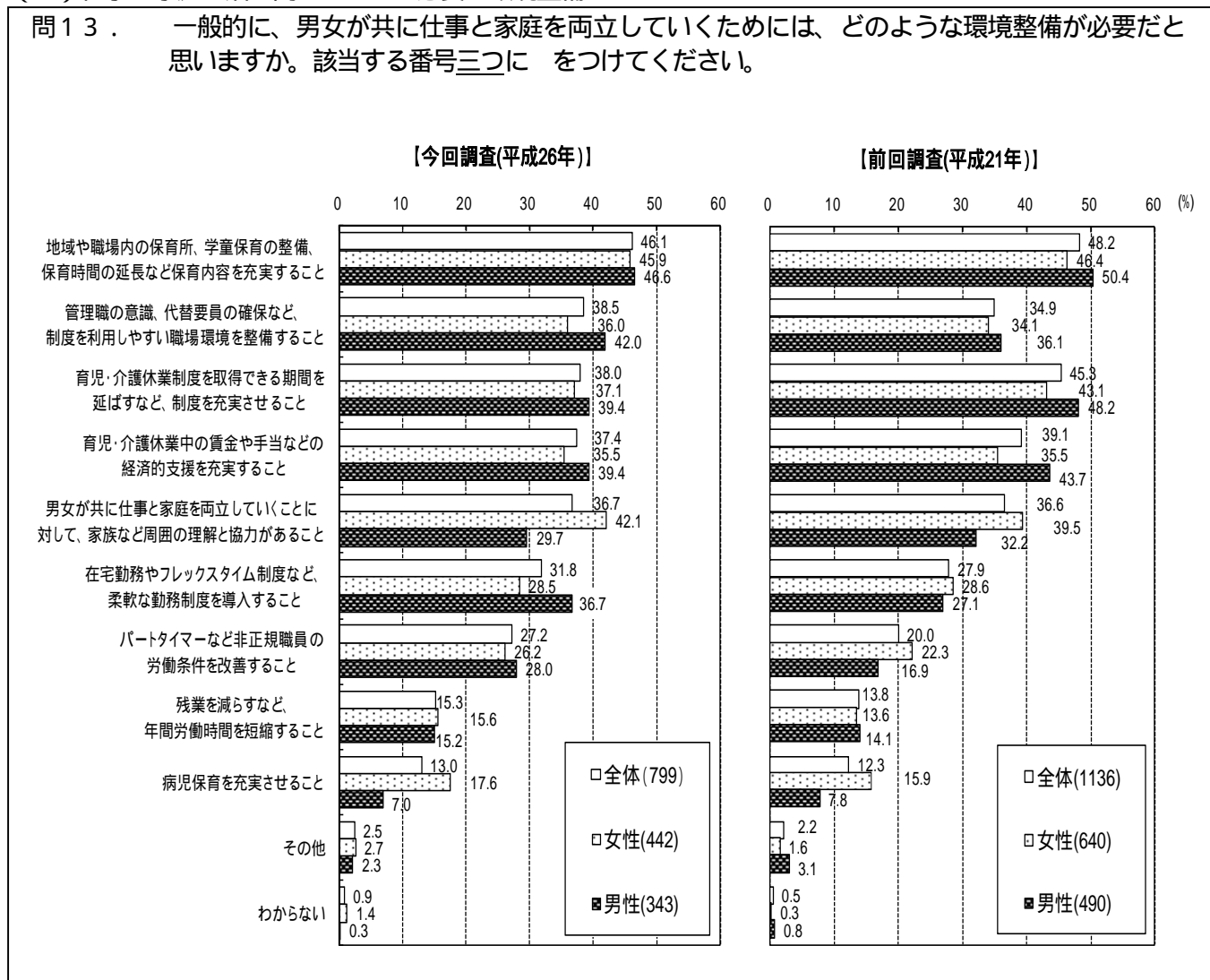


仕事と家庭生活の両立

7. 仕事と家庭生活の両立

(1) 仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備

問13. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。該当する番号三つに をつけてください。



男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備について聞いたところ、男女とも『地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(女性45.9%、男性46.6%)と回答している割合が最も高かった。

女性では、次に『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、家族など周囲の理解と協力があること』(女性42.1%、男性29.7%)で、男性より12.4ポイント高かった。

男性では、次に高かったのは『管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること』(男性42.0%、女性36.0%)で、女性より6ポイント高くなっている。

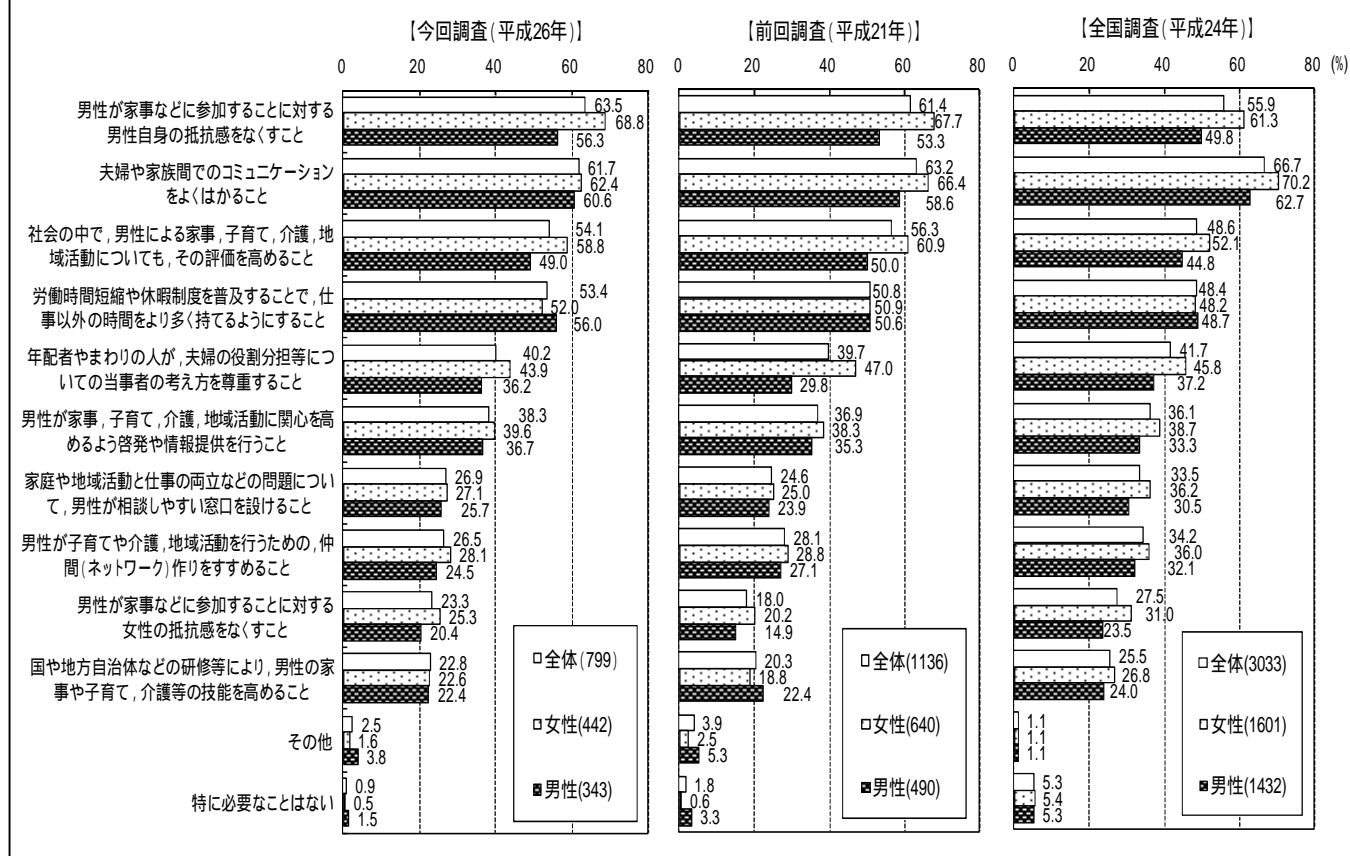
【前回調査(平成21年)との比較】

平成21年の前回調査と比較すると、『育児・介護休業を取得できる期間を延ばすなど、制度を充実させること』を選んだ割合が、前回に比べて男女ともに低くなっている。『在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること』は、前回に比べて男性で9.6ポイント高くなっている。

仕事と家庭生活の両立

(2) 男性が家事・子育て等に参加するために必要な環境整備

問14. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。該当する番号すべてに をつけてください。



今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて聞いたところ、女性は『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(68.8%)が最も高くなっており、次いで『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』(62.4%)となっている。

男性は、『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』(60.6%)が最も高く、次いで『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(56.3%)となっている。

『社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること』は、女性(58.8%)が男性(49.0%)を9.8ポイント上回っており、男女の差が大きくなっている。

【前回調査(平成21年)との比較】

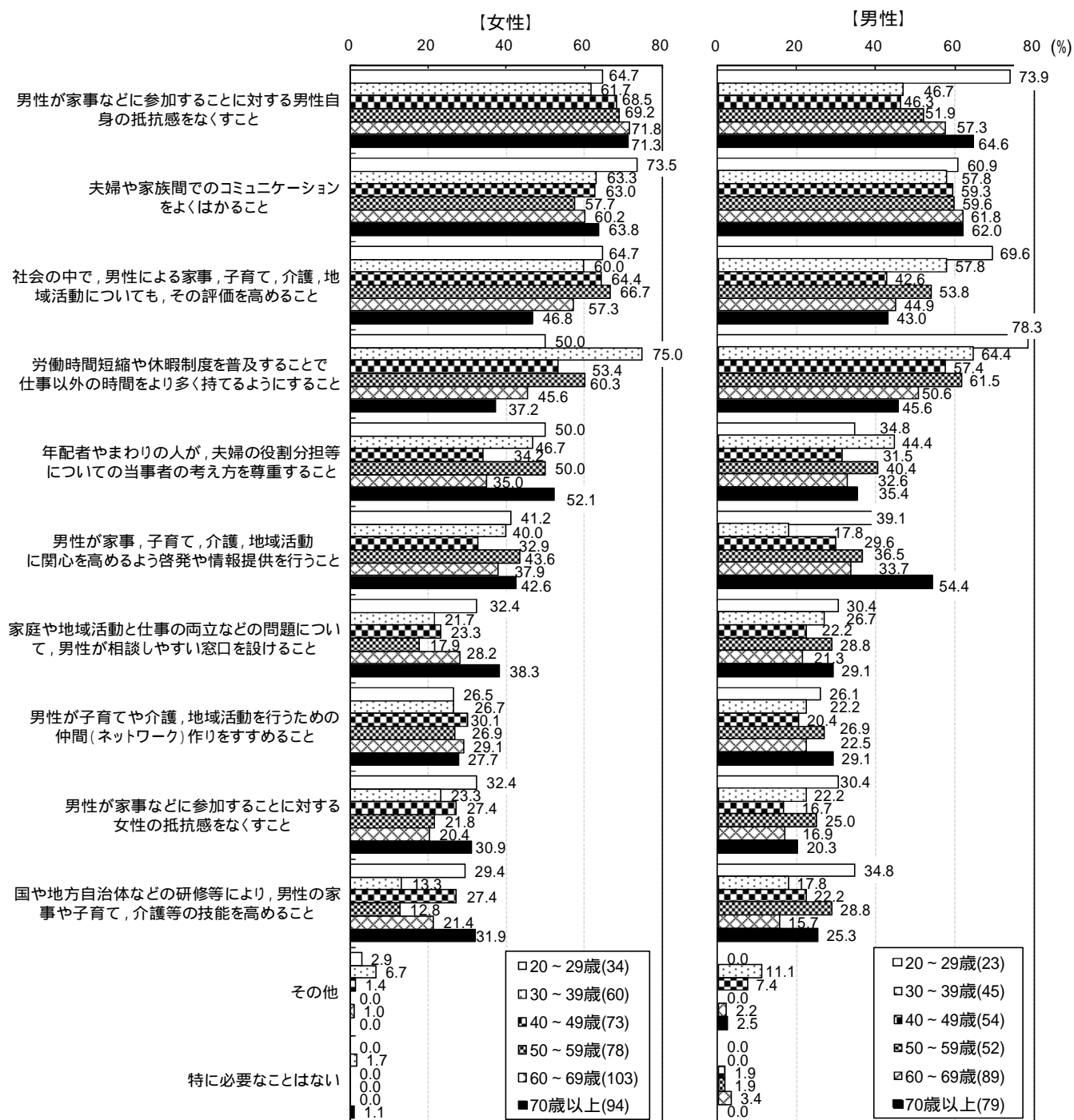
平成21年に実施した前回調査と比較すると、それほど大きな差は見られないが、前回調査において最も回答の割合が高かった『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』の割合が若干減少し、『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』の割合が増加しており、上位1番と2番が入れ替わっている。

【全国調査(平成24年)との比較】

内閣府が平成24年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」と比較すると、全国調査では男女とも『夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること』(女性70.2%、男性60.7%)が最も高くなっており、『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(女性61.3%、男性49.8%)は、男女とも千葉県(女性68.8%、男性56.3%)の方が全国より高くなっている。

仕事と家庭生活の両立

【年代別】



『労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること』を選択した割合は、全体ではそれほど高くないが、20代と30代の男性(20代78.3%、30代64.4%)及び30代の女性(75.0%)で最も高くなっている。

『夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること』は、男女とも全年代で高くなっており、中でも20代女性は73.5%と突出して高い。

『男性が家事、子育て、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと』は70歳以上の男性(54.4%)で選択した割合が高い。

『男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』は、ほとんどの年代で女性の方が選択した割合が高いが、20代男性は73.9%と全年代の中で最も高く、女性よりも高くなっている。